

《JJN スペシャル》 「治る力」を引き出す一実践！臨床栄養

東口高志 編

＜書評者＞ 平田公一（札幌医科大学教授 外科腫瘍学・
消化器外科学/日本静脈経腸栄養学会理事長）

本書を読み終えてみると、さすが東口高志編とうならされた。同氏の高適な精神性と教育力の高さを反映し、気づかひの余白も実に適切、各ページの文字とともに説得力のある図や表の提示が、われわれを次のページを読みたいと引き立てるのである。知識が感性的に身に付きやすい教育図書となっている。おのおののページに向ける眼力にいつそう力が知らず知らずのうちに加わってしまうという、そのような工夫が設定されている。またみごとに多くの共著者陣として素晴らしい専門家が並んでいる。

昨今、NST 活動への評価は高く、保険診療にも大きく反映されたことは周知のことである。その質を支え、そしてチーム医療を向上させるにはもってこいの書であり、そして TPO を得た発刊ともいえる。多くの医療従事者や教育担当者は、日々の勤務の中で負担を背負いつつ、努力による前進が成されている。その努力の結果として、医療の原点ともいえる「ヒポクラテス医学」の心と信念を日常臨床の場にその理念の導入とその普及へとつなげようとする各種医療職の考え方にさらに向上がみられる。そのような日本の努力の

成されている今日、本書による具体的に良質な臨床栄養学の次世代も読んだ提案は、次への目標設定と励みを提供していると考える。ありがたいことである。

さて、本書を一読した後の第一印象として、編者・執筆者である東口高志先生と共著者の方々の医療への信念が、読者である医療実践者に「ヒポクラテス医学の心」をチーム医療の基本に置くべしとの理念を強く訴えようとしていることが、一貫して伝わってくる。同時に、「まったく異質の新しい考え方を導入し、多くの医療者にその体得と早期実践を」との要望も直感できる。新しいチーム医療のあり方を知ってもらいたい、との思いが本書には込められている。学ぶ者に従順的姿勢の重要性を訴え、「忠実に素朴に病状を観察しようとする姿勢の重要性」を勧めている。

共著者の先生方の今日に至るまでの多年にわたる経験、特に消化器外科医や緩和医療あるいは広く臨床栄養学での実践的苦労から得た熟考性、そして生来から有する才能が、編者が求めた該博な企画の1つひとつに答える形となっており、それぞれの項目としての『真髄』にしっかり触れた解説文と

図が駆使され、NST を担当する者の胸を強く打つ内容がいずれのページでも完結している。同時に、厳格な雰囲気の中で常に努力せよとの天の声ともいえる教示的な表現が一貫して各所に垣間みることができる。患者を自然体でみることも、疑問に対しては学問をすることがいかに大切かをも訴えている。未来のために想像する力、潜んでいる既存の能力、を導き出すとともに、臨床栄養学とはなにかの真髄を伝えようとする緊張感と熱気を込めた心意気が伝わってくる。併せて医療者としての道徳・哲学、医療者として身につけておくべきあたりまえの礼儀・規律についても指導展開をしている。まずは、臨床栄養学の知識整理、そして手工業的な技術への深い理解を核心に設定し、私心をしりぞけ、配慮、慎み、威厳、平静、判断、清潔、知力、自由、忠誠などを勧めている。若い医療従事者にわかりやすく解説することに配慮し、その中で人として豊かな関与をすべきことも唱えている。このように、医学教育指導者における臨床栄養学の教育法のあり方と、今後の方向性を広く示唆した貴重な書と言える。われわれに何が要求されているのか、何をすべきかを教えてくれる名書である。

●AB 判 頁 312 2010 年
定価 3,780 円
(本体 3,600 円＋税 5%)
[ISBN978-4-260-01030-6]
医学書院 刊